

**YAMAHA**

NATURAL SOUND STEREO MIXING AMPLIFIER

# AX-101/AX-S101

## 取扱説明書

ご使用前に必ずお読みください。

このたびはヤマハステレオミキシングアンプAX-101/AX-S101をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

AX-101/AX-S101の優れた性能を充分に発揮させるとともに、末永くご愛用いただくために、この取扱説明書をご使用前にぜひお読みくださいますよう、お願いいたします。お読みになったあとは保証書とともに必ず保存してください。

AX-101とAX-S101の違いは外形寸法が異なるだけで基本的な機能、性能は同じです。

本取扱説明書の説明用イラストはAX-101を使用しています。

### 目次

特長	2	リアパネル各部の名称とはたらき	8
ご使用のまえに	2	フロントパネル各部の名称とはたらき	10
取扱上のご注意	3	カラオケ演奏のしかた	12
システム接続図	4	故障かなと思ったら	14
ヤマハのDSP-101, MX-101と接続するには	6	参考仕様	15
接続のしかた	7	ヤマハホットラインサービスネットワーク	16

# 特長

本機は音質重視、カラオケ機能充実の歌いやすさをポイントに設計されたカラオケアンプです。

## ●150W+150Wの大出力アンプを内蔵

本機は150W/chのステレオメインアンプと25Wのモニター用モノラルアンプの2つのアンプを内蔵しています。

## ●プリアウト・メインインシステム

ヤマハのDSPとシステムを組むときや他のシステムと組み合わせるときに便利なプリ出力、メイン入力端子を装備しています。

## ●9ステップ・デジタルキーコントローラー

ワンタッチでキー（音程）を替えることのできるキーコントローラーをフロントパネルに装備しています。

## ●キーコントロール自動復帰機能

1曲の演奏が終了すると設定していたキーは自動的に標準キーに戻ります。

## ●4系統のマイク入力

音量、音質を独立してコントロールのできる4系統のマイクジャックを装備しています。

## ●入力ソース自動切換機能

再生するソースは入力した音声信号または映像信号により、自動的に切り換わります。

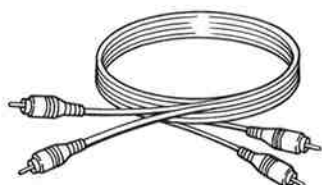
## ●高音質なデジタルエコー

ディレイとリピートを独立してコントロールのできるデジタルエコーを装備しています。

# ご使用のまえに

## ■付属品を確認してください

- ・2Pピンプラグコード×2



- ・ラックマウント用ネジセット（AX-101のみに付属）



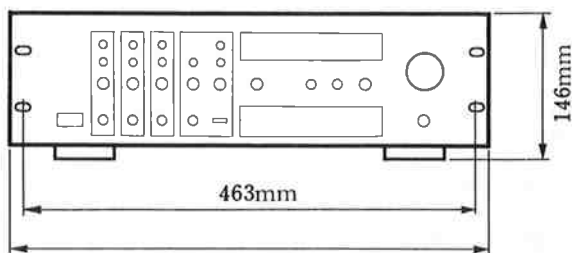
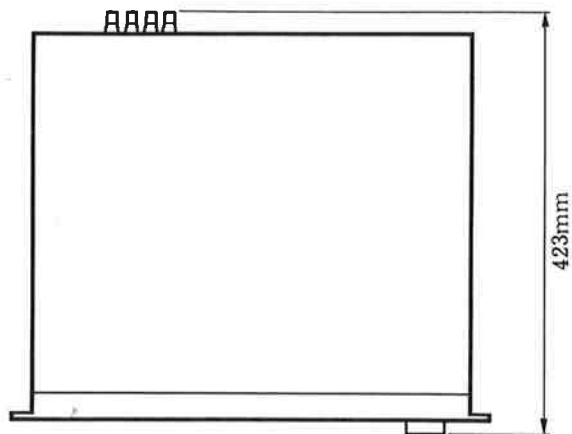
## ■設置場所について

本機を設置の際は**通気性の良い場所を選び、放熱を妨げない**ようにしてください。

また、本機はデジタル機器ですので、本機を使用中は他の機器に影響を与えることがあります。テレビの画面が乱れたり、チューナーに雑音が入るようなときは、それらの機器と本機の設置場所を離してください。またテレビやチューナーが簡易型室内アンテナを使用している場合は、専用の屋外アンテナに換えますと、テレビやチューナーへの影響が軽減されることがあります。

本機をご使用にならないときは、本機のPOWERスイッチを切っておいてください。

## ■外形寸法（AX-101）



AX-101 : 480mm  
(AX-S101 : 435mm)

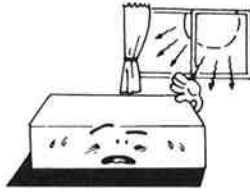
## ■AX-101をラックマウントするときは

付属のネジで本機をラックマウントすることができます。詳細はラックの説明書をご参照ください。

# 取扱上のご注意

## 高温・低温はさけて！

窓際や直射日光の当たる場所・暖房器具のそばなど極端に暑い場所(周囲温度40℃以上)・温度の特に低い場所(周囲温度-5℃以下)・湿度の多い場所(湿度90%以上)は、さけてください。



## ほこり・水気をさけて！



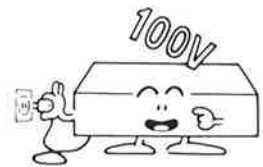
ほこり・水気の多い場所はさけてください。本機の上に、花びんや金魚鉢など水の入ったものは置かないでください。

## 不安定な場所をさけて！



## 国内のみ使用可

家庭用電源コンセント  
AC100V



## 雷が近づいたら



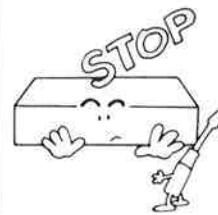
早めに電源プラグをコンセントから抜いてください。

## 薬物厳禁



ベンジン、シンナーなどの溶剤でふくと、変質したり変色します。薬物の使用はさけてください。掃除をするときは、柔らかい布でカラぶきしてください。また接点復活剤は金属部分以外に付着しないようにご使用ください。

## 開けないで！



内部に手を入れると危険です。ケースは開けないでください。

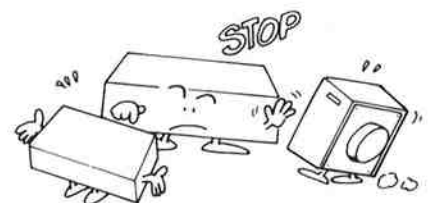
## 引っぱらないで！



電源コード・ピンコードを抜くときは、コードを引っぱらないで必ずプラグを持って抜いてください。

## チューナやテレビと近付けない！

本機はデジタル信号を扱いますので、電波を扱う機器に障害を与える場合があります。チューナやテレビなどとはできるだけ離して設置してください。障害をなくすために、チューナやテレビのアンテナには外部アンテナを使用し、同軸ケーブルで配線することをお勧めします。



## 保証書の手続きを！

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。

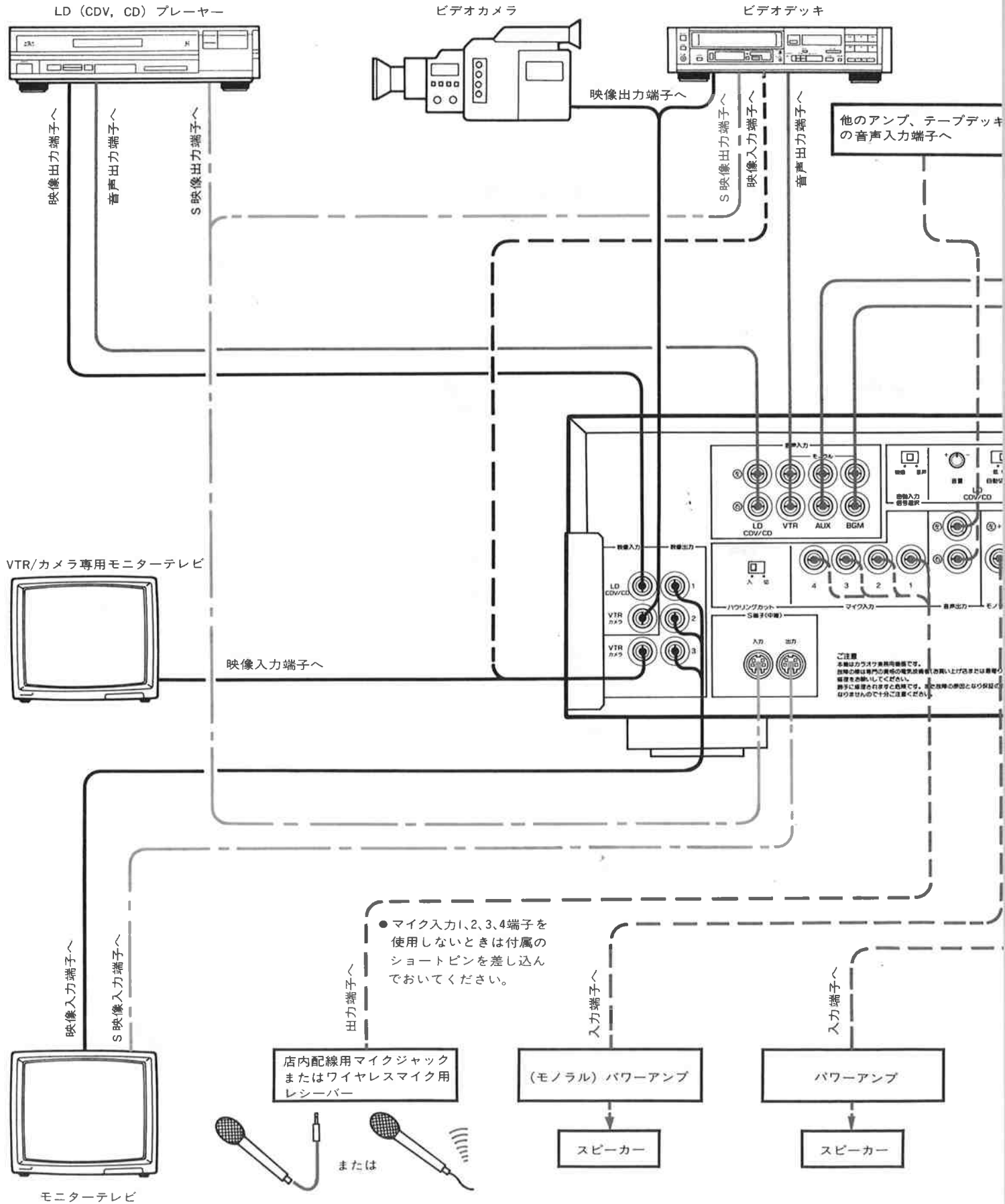


## こわれた？



14ページの「故障かなと思ったら」をご覧ください。

# システム接続図



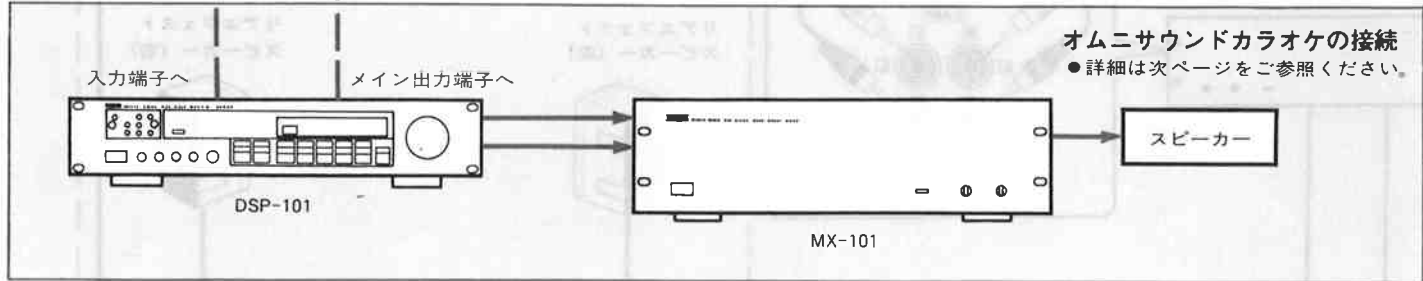
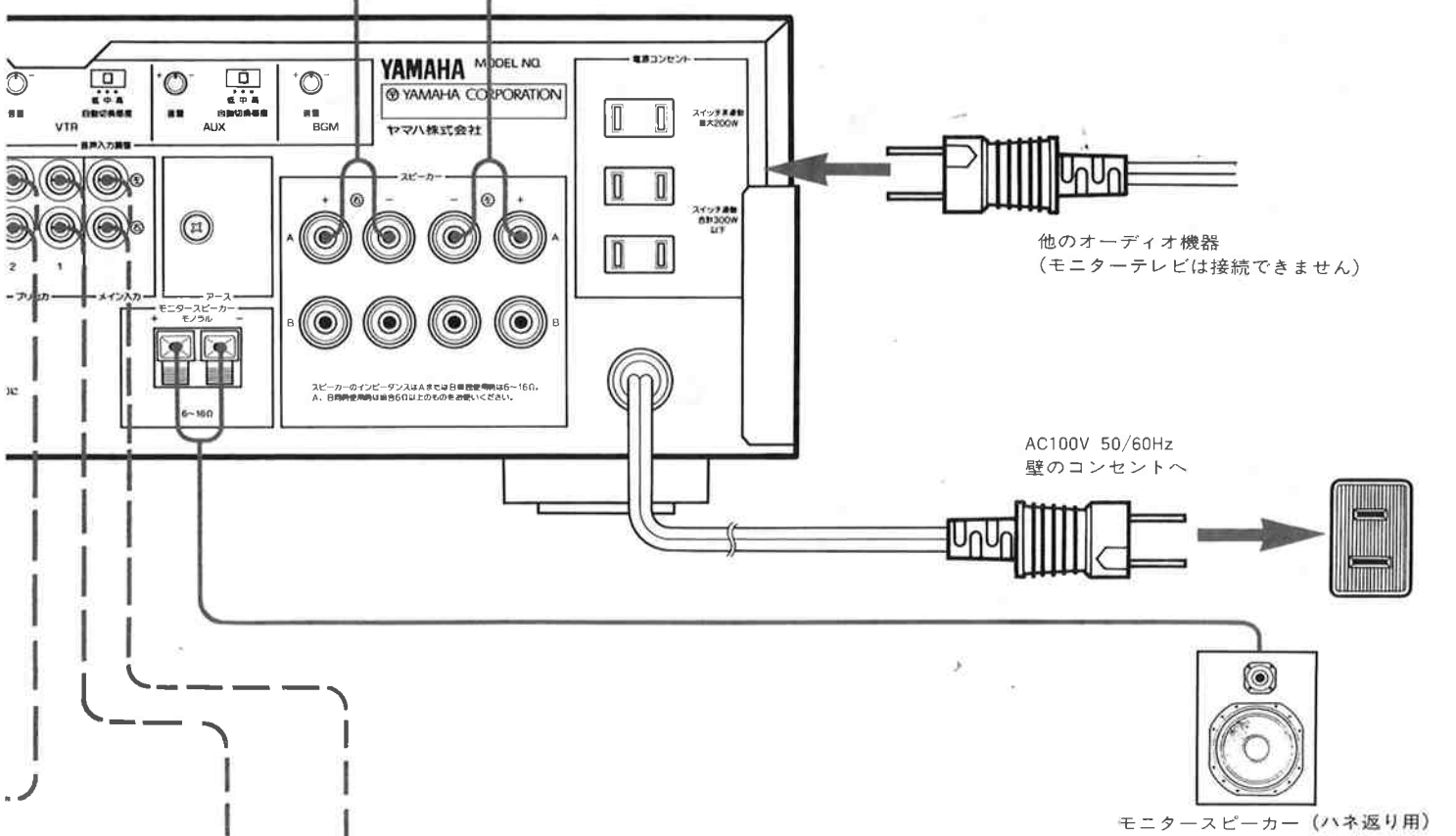
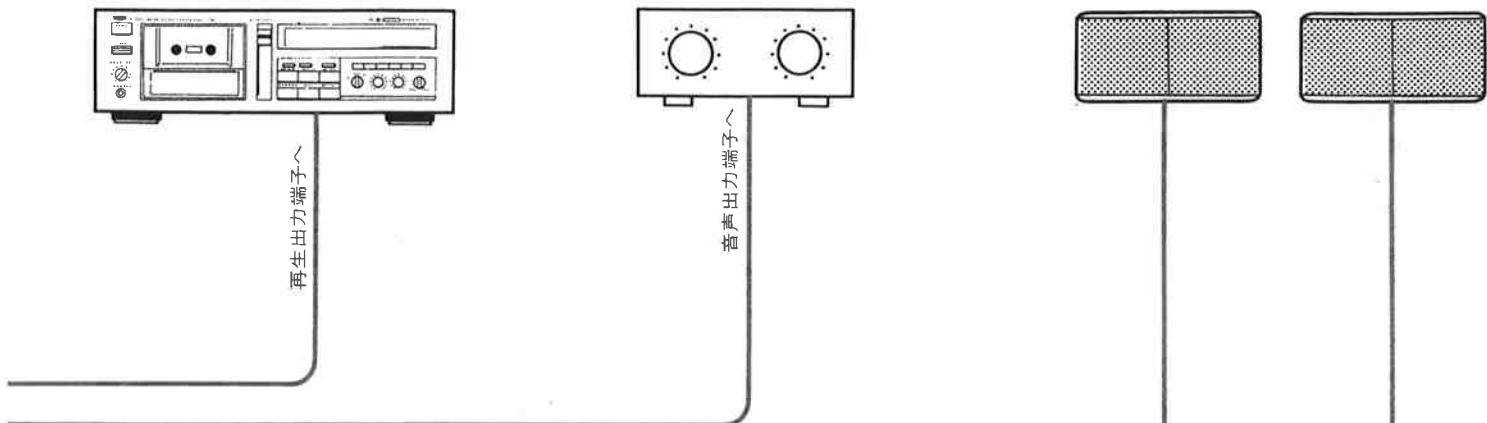
# システム接続図

テーブデッキ、8トラックテーププレーヤーなど

有線放送のチャンネル切替ボックス

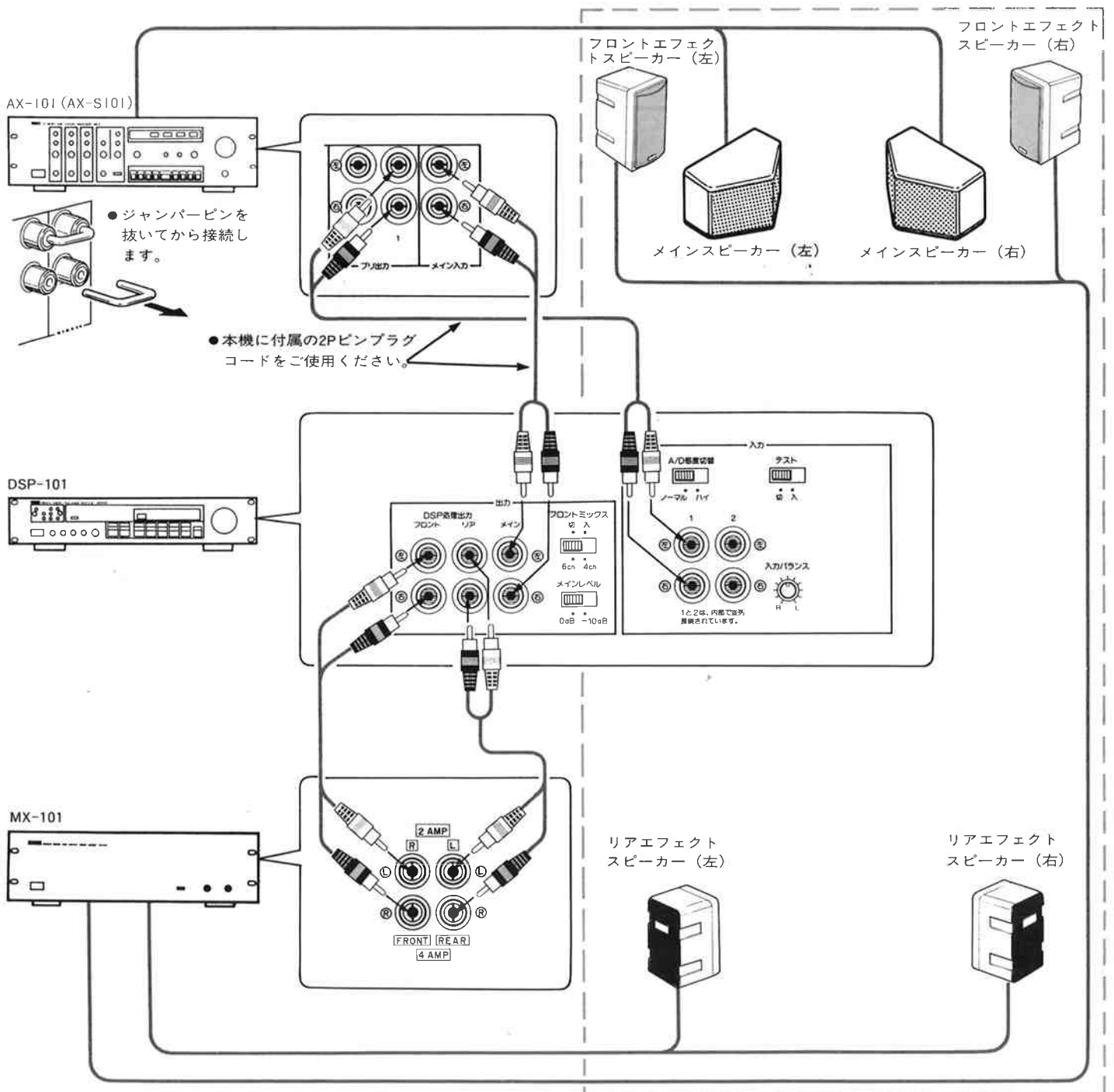
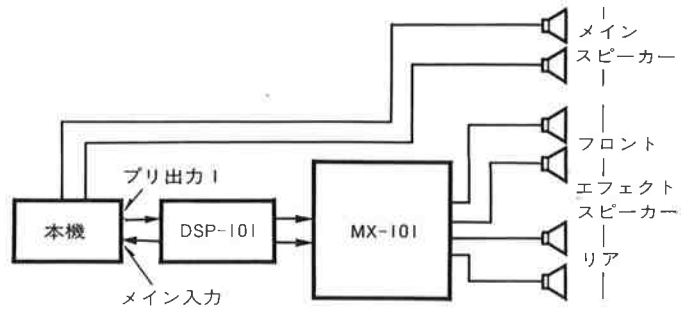
スピーカー 左

スピーカー 右



# ヤマハのDSP-101, MX-101と接続するには

- 接続の前に、電源がオフの状態ジャンパーピンを外します。
- この接続図は6chシステムの構成を示しています。
- 詳細はDSP-101, MX-101の取扱説明書をご参照ください。



# 接続のしかた



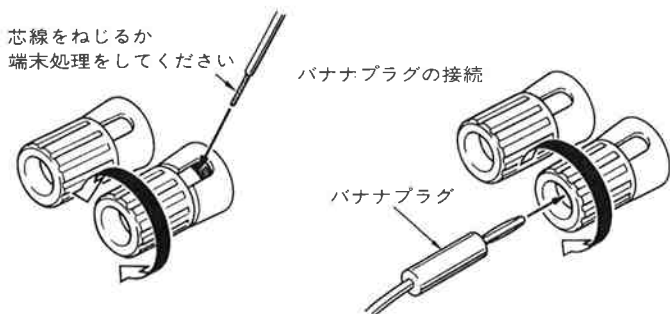
- 接続は、8、9ページのリアパネル各部の名称とはたらきを良く読んでから行ってください。
- 本機のビジュアル系の入・出力端子は黄色、オーディオ系の入・出力端子の左/Lチャンネルは白色、右/Rチャンネルは赤色になっています。  
接続の際は各機器の電源を切り、左/Lチャンネル、右/Rチャンネルを確認して正しく接続してください。

- 接続する機器によっては端子名などが異なる場合があります。接続する機器の取扱説明書もあわせてご参照ください。
- 本機はアナログ接続専用です。接続する機器にアナログ、デジタルの両方の端子がある場合は、アナログ入・出力端子を使って本機と接続してください。
- 接続に誤りがないことを確認してから、電源コードをACコンセントに差し込んでください。

## ■メインスピーカーの接続

ステージに向かって右側に設置するスピーカーのコードをスピーカー端子の“右”に、左側に設置するスピーカーのコードをスピーカー端子の“左”に、極性（+、-）を確認して確実に接続してください。極性を間違えますと低音の損なわれた不自然な再生音となります。ご注意ください。

- 接続の際はスピーカーコードの芯線をよくねじるか、端末処理を施し、お互いにショートしないようにご注意ください。
- バナナプラグを使用する場合は、端子を強くしめてからご使用ください。



- スピーカーを1組だけ接続する場合は、インピーダンスが6～16Ωものをご使用ください。2組のスピーカーを接続する場合は総合インピーダンスが6Ω以上になるようなスピーカーをご使用ください。

### 総合インピーダンスは……

A端子のスピーカーのインピーダンス=XΩ  
B端子のスピーカーのインピーダンス=YΩ  
とすると

$$\text{総合インピーダンス} = \frac{X \times Y}{X + Y}$$

で求めることができます。

## ■モニタースピーカーの接続

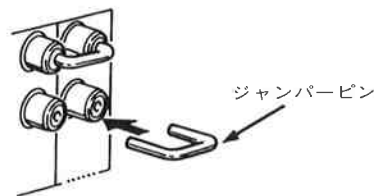
芯線をねじるか  
端末処理をしてください



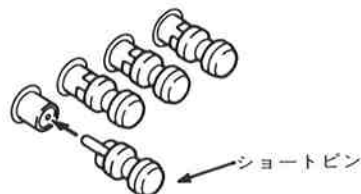
レバーを押し、芯線を差し込んでから  
レバーを戻します

## ご注意

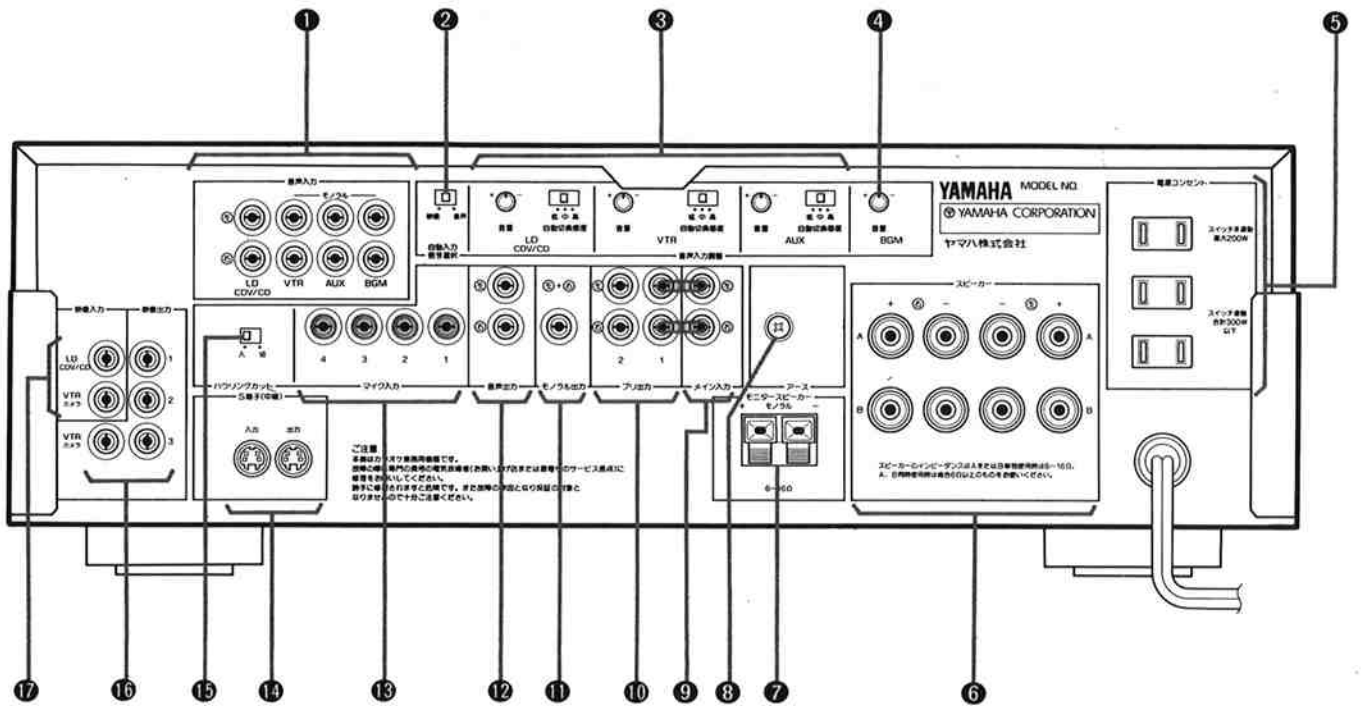
リアパネルのプリ出力1端子とメイン入力端子を使用しないときは必ずジャンパーピンを差し込んでおいてください。抜けていますと、音はでません。



リアパネルのマイク入力1、2、3、4端子を使用しないときは必ず付属のショートピンを差し込んでおいてください。



# リアパネル各部の名称とはたらき



## ①音声入力端子

再生する機器の音声出力端子と2Pピンプラグコードで接続します。

LD : LD (レーザーディスク) プレーヤー、CDVプレーヤー、CDプレーヤーなどの音声出力端子と接続します。

VTR : ビデオデッキやビデオカメラの音声出力端子と接続します。

AUX : テープデッキや8トラックテーププレーヤーなどのAV機器の音声出力端子と接続します。

BGM : 有線放送のチャンネル切替ボックスなど、常時再生する機器の音声出力端子と接続します。

●VTR、AUX、BGM端子に接続する機器がモノラルの場合は、“左”端子に接続します。

## ②自動入力信号選択スイッチ

本機は入力信号を検知して再生する機器を自動的に切り換えます。その切り換えを音声信号によるか、映像信号によるかを選択するスイッチです。(自動切換機能について→13ページ参照)

●S端子のみを使って接続している場合は、映像による自動切換はできません。

## ③音声入力調整 音量と自動切換感度スイッチ

LD、VTR、AUX端子に接続した機器各々の入力音量レベル調整、および自動切換を検知する切換感度を個別に設定することができます。

音量 : 通常はツマミをセンタークリック位置にしておきます。VTR、AUX端子に接続した機器は、LD (ビデオディスク) またはCDV、CDディスクの音量と同じになるように調整します。

自動切換感度

高 : 再生している途中で他の入力に切り換わってしまうときに、この位置にします。

中 : 通常はこの位置にしておきます。

低 : 再生が終わっても次に再生するソースに切り換わらないときや、有線放送 (BGM) に切り換わらないときに、この位置にします。

ピーシーエム

## ④BGM 音量調整ツマミ

有線放送 (BGM) の入力音量レベルを調整します。

●有線放送の入力音量レベルは、ツマミがセンタークリック位置で、他の機器の1/2になるように低く設定されています。



## ⑤電源コンセント

スイッチ非連動 200W

本機の電源スイッチのオン・オフに関係なく、消費電力200WまでのAV機器に電源を供給します。

スイッチ連動 合計300W以下

本機の電源スイッチのオン・オフに連動して、2個のコンセントの合計で300WまでのAV機器に電源を供給します。

- 本機の電源コンセントにモニターテレビの電源プラグをつながないでください。雑音や、画像障害の原因となります。

## ⑥スピーカー端子

A、B端子に2組のスピーカーセットを接続することができます。

- スピーカーを1組だけ接続する場合は、インピーダンスが $6\Omega\sim 16\Omega$ のものをご使用ください。  
2組のスピーカーを接続する場合は、総合で $6\Omega$ 以上のスピーカーをご使用ください。(7ページ参照)

## ⑦モニタースピーカー端子

モニタースピーカーを接続する端子です。

インピーダンス $6\Omega\sim 16\Omega$ のスピーカーをご使用ください。

- モニタースピーカー出力はモノラル（左+右）です。

## ⑧アース端子

接続する機器にアース端子がある場合は、この端子と接続します。

- 業務用にご使用になる場合は、周辺機器との関係でアースが浮き感電する場合があります。感電や妨害ノイズを防ぐため、必ず地中アースをとるようにしてください。

## ⑨メイン入力端子

本機をヤマハのDSPなどと接続するときは、それらの機器のメイン出力端子と2Pピンプラグコードで接続します。

- 外部機器を接続しないときは、必ず付属のジャンパーピンでプリ出力端子1とつないでください。ジャンパーピンが外れていますと、音は出ません。

## ⑩プリ出力端子1、2

1：本機をヤマハのDSPなどと接続するときは、それらの機器の入力端子と2Pピンプラグコードで接続します。

- 外部機器を接続しないときは、必ず付属のジャンパーピンでメイン入力端子とつないでください。ジャンパーピンが外れていますと、音は出ません。

2：スピーカーを増設するときなど、スピーカーを他のパワーアンプで鳴らすときは、パワーアンプのメイン入力端子と2Pピンプラグコードで接続してください。

## ⑪モノラル出力端子

モニタースピーカーを他のパワーアンプで鳴らすときは、パワーアンプの入力端子と市販の1Pピンプラグコードで接続します。

## ⑫音声出力端子

マイクミキシングされた音声を録音するときは、テーブデッキやビデオデッキの録音または音声入力端子と2Pピンプラグコードで接続します。

**ご注意：**このときテーブデッキの出力が本機の入力端子に接続されていると、自動入力切換機能が誤動作しますので、テーブデッキの出力は接続しないでください。

## ⑬マイク入力端子 1、2、3、4

店内配線用のマイクジャックです。また、ワイヤレスマイクを使用する場合は、ワイヤレスマイクレシーバーの出力端子と接続します。

- この端子はフロントパネルのマイク端子と並列の回路構成になっています。フロントパネルのジャックにマイクが接続されている場合は、フロント側のマイクが優先します。
- この端子を使用しないときは、付属のショートピンを端子に差し込んでおいてください。

## ⑭S端子（中継）

入力：接続する機器にSビデオ出力端子がある場合は、市販のSビデオケーブルでS接続をすることができます。

出力：接続する機器にSビデオ入力端子がある場合は、市販のSビデオケーブルでS接続をすることができます。

- S接続のみの機器は映像による自動入力切換はできません。

## ⑮ハウリングカットスイッチ

マイク使用時にハウリング（キーンという音）が発生しやすい場合は“入”の位置にしておきますと、自動的にハウリングの発生を防ぎます。

通常は“切”の位置にしておきます。

## ⑯映像出力端子1、2、3、VTR/カメラ

モニターテレビの映像入力端子と市販の映像用ピンプラグコードで接続します。

モニターテレビは3台まで接続することができます。

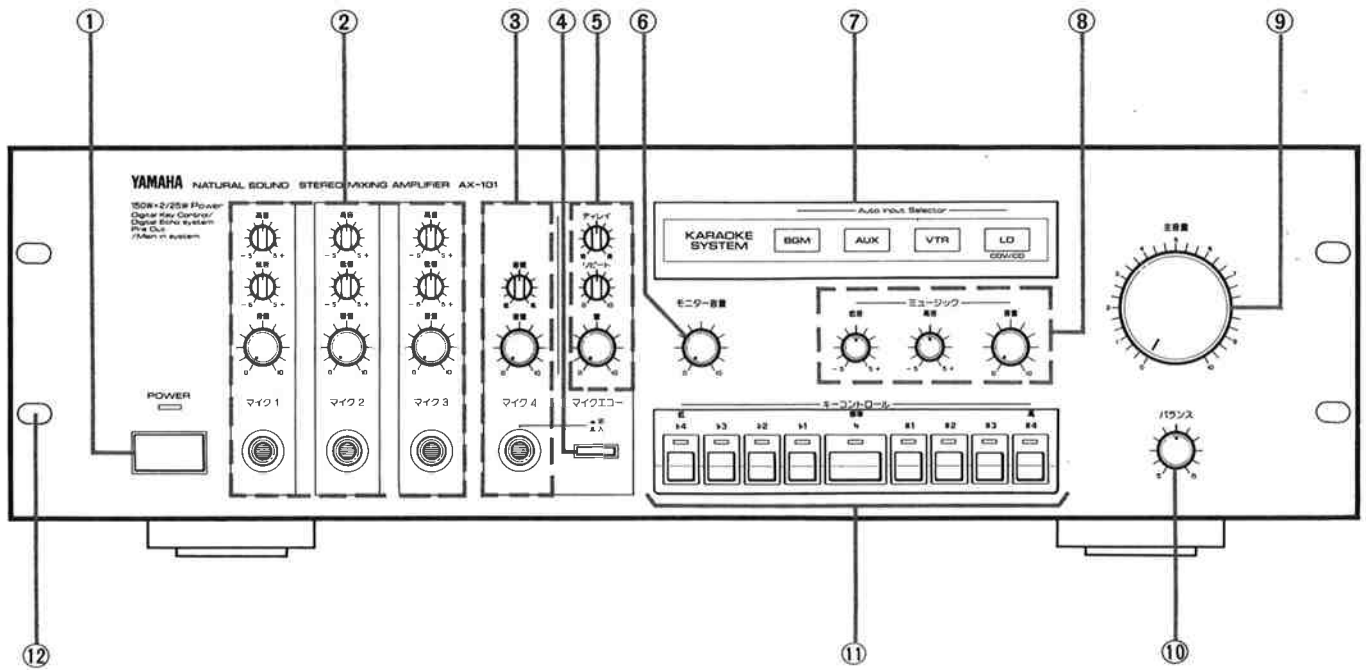
- VTR/カメラ端子は、映像入力VTR/カメラ端子に接続された機器の映像信号が常に出力されていますので、モニターテレビを接続しますと、映像をモニターすることができます。  
また、映像を録画する場合はビデオデッキの映像入力端子と接続します。

## ⑰映像入力端子

LD：ビデオディスクプレーヤーやCDV/CDプレーヤーの映像出力端子と市販の映像用ピンプラグコードで接続します。

VTR/カメラ：ビデオデッキやビデオカメラの映像出力端子と市販の映像用ピンプラグコードで接続します。

# フロントパネル各部の名称とはたらき



\*イラストはAX-101です。

## ①POWERスイッチ

本機の電源を入/切するスイッチです。  
電源が入っているときはスイッチ上のインジケータが点灯します。

## ②マイクジャックと音量、音質コントロール

マイク1、2、3とも同様です。  
ジャック：マイクのプラグを差込みます。  
音量：マイクの音量を調整します。右に回すほど音量が大きくなります。  
低音：マイクの音質の低音を調整します。中央から右に回すと強調され、左に回すと弱まります。  
高音：マイクの音質の高音を調整します。中央から右に回すと強調され、左に回すと弱まります。  
●マイク1、2、3はエコースイッチの“入・切”に関係なく、常にエコーがかかります。

## ③マイク4（司会者用）

ジャック：マイクのプラグを差し込みます。  
音量：マイクの音量を調整します。右に回すほど音量が大きくなります。  
音質：中央から右に回しますと高音が強調され、中央から左に回しますと低音が強調されます。

## ④マイク4のエコースイッチ

出た状態（入）でマイク4にエコーがかかり、押し込んだ状態（切）で、マイク4のエコーが切れます。

## ⑤マイクエコー調整ツマミ

マイク1、2、3およびエコースイッチが“入”のときのマイク4のエコーを調整します。

- ：エコー効果の量を調整します。  
右に回すほど、効果が大きくなります。ツマミが0の位置のときは、エコーはかかりません。
- リピート：エコーの時間（繰り返し回数）を調整します。  
右に回すほどエコーのかかる時間が長くなります。
- ディレイ：エコーの繰り返し間隔を調整します。  
右に回すほど繰り返される各々の音の間隔が長くなります。

## ⑥モニター音量（ハネ返り用）

モニタースピーカーの音量を、主音量ツマミに関係なく独立して調整します。  
ツマミを右に回すほど音量が大きくなります。

## ⑦AUTO INPUT SELECTOR インジケータ

再生しているプログラムを点灯表示します。

## ⑧ミュージックツマミ

- 音量：演奏の音量を調整します。
- 高音：演奏の高音を調整します。右に回すほど高音が強調され、左に回すほど弱まります。
- 低音：演奏の低音を調整します。右に回すほど低音が強調され、左に回すほど弱まります。

## ⑨主音量ツマミ

全体の音量を調整します。  
右に回すほど音量が大きくなります。

## ⑩バランスツマミ

左右のスピーカーの音量バランスを調整します。

## ⑪キーコントロール

標準：標準のキー（音程）です。他のキーに設定されているときは、押すと標準のキーに戻ります。

高#：標準のキーから半音ステップで4段階、2度までキーを上げることができます。

低b：標準のキーから半音ステップで4段階、2度までキーを下げるすることができます。

- 選択されたキーはインジケータが点灯します。
- 一曲の演奏が終わりますと、設定していたキーは自動的に標準キーに戻ります。

## ⑫ラックマウント用ネジ穴（AX-101のみ）

AX-101をラックにマウントするときに使用します。

## エコーの調整

### ●マイクエコー量の調整

マイクエコー量ツマミでお好みの効果量に調整してください。通常は中央の位置に合わせておきます。

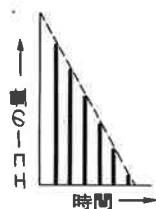
●エコーはマイクの音だけに効果を付けることができます。演奏される音にエコー効果を付けることはできません。

### ●マイクエコー特性の調整

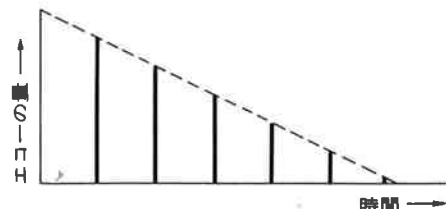
#### ・ディレイの調整

エコーで繰り返される音の間隔を調整します。通常は中央の位置にしておきます。

●エコーをかけすぎますと不自然な音になることがありますので、ご注意ください。



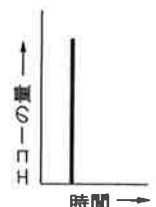
ツマミを「短」側に回したとき



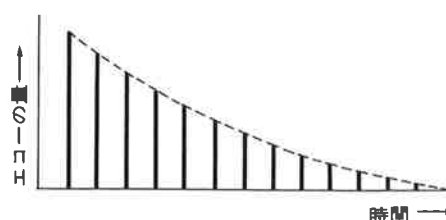
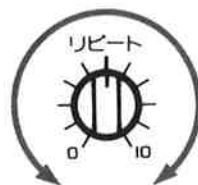
ツマミを「長」側に回したとき

#### ・リピートの調整

エコーの持続時間を調整します。通常は中央の位置にしておきます。

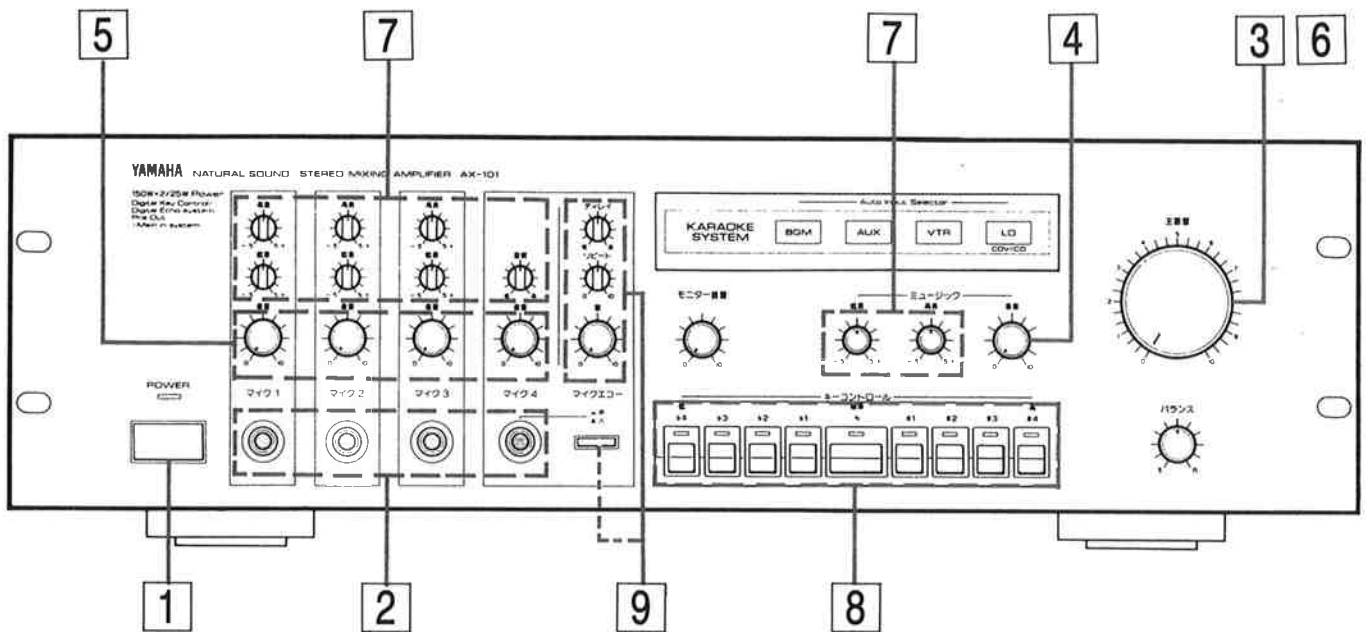


ツマミを「0」側に回したとき



ツマミを「10」側に回したとき

# カラオケ演奏のしかた



\*イラストはAX-101です。

## 各機器の音量調整について

入力する機器が切り換わった場合に、各々の機器がお好みの音量で再生するように、あらかじめ各機器の音量を調整しておきます。

- 1 主音量つまみとミュージック音量つまみを少し回し、適切な音量にしておきます。
- 2 LD, VTR, AUX端子に接続した各々の機器の音量を、リアパネルのそれぞれの音量つまみで調整します。  
●通常はセンタークリック位置が音量の目安ですが、ビデオディスク (LD) の音量と同じになるように調整してください。
- 3 リアパネルのBGM音量つまみでBGMの音量を決めます。BGMの音量は、中央のセンタークリック位置で他の機器の1/2の音量になるように低めに設定されています。

## マイクミキシングのしかた

- 1 各機器の電源を入れます。
  - 2 マイク音量つまみを必ず最小の位置にしてから、マイクをマイクジャックに差し込みます。
  - 3 演奏を始め、主音量つまみをとりあえず4~5ぐらいの位置に設定します。
  - 4 ミュージック音量つまみで演奏の音量を調整します。
  - 5 演奏を聞きながら、マイクに声を出し、マイク音量つまみでマイクの音量を調整します。
  - 6 主音量つまみで全体の音量を調整します。
  - 7 マイクの音質つまみおよびミュージックの音質つまみを調整してお好みの音質にします。
  - 8 必要に応じてキーコントロールを使って、お好みのキーを選びます。
  - 9 お好みに合わせてマイクエコーつまみでエコー効果を調整します (前ページ "エコーの調整" をご参照ください)。  
●マイク4にエコーをかけるときは、エコースイッチを入れます。
- \*1曲の演奏が終わりますと、自動的に優先順位 (13ページ参照) に従ってVTR、AUXまたはBGMの再生に切り換わります。

**自動切換機能について**

本機は同時に入力しているビデオディスクプレーヤーやビデオ機器、有線放送などを優先順位に従って自動的に切り換え、再生します。

本機の優先順位は、①LD→②VTR→③AUX→④BGMに設定されています。

また、LD、VTR、AUXの端子に接続されている機器は自動切換感度スイッチにより、検知レベルを個別に設定することができます。

\*優先順位の低いプログラムソース(AUXに接続したテープレッキやBGMなど)を演奏するときは、LDなどの上位機種種の演奏をやめるか、その機器の電源を切ります。

**●自動入力信号選択スイッチについてのご注意**

リアパネルの自動入力信号選択スイッチの設定は、接続されているLDプレーヤーの映像方式により異なります。下記の状態に従ってスイッチの位置をお決めください。設定を誤りますと、自動切換が正しく行われません。

停止時に画面が消える(ブラック画面になる)LD(CDV/CD)プレーヤーの場合→映像側(音声側でも可)にします。  
停止時に画面がブルー(または他の色の画面)になるLD(CDV/CD)プレーヤーの場合→音声側にします。

\*本機はLD再生を最優先に設定しています。自動入力信号選択スイッチが“映像”側になっている場合でも、LDの音声信号が入力されると、自動的にLD再生に切り換わります。

\*S接続だけの機器は映像による自動切換はできません。

**モニター映像自動切換機能について**

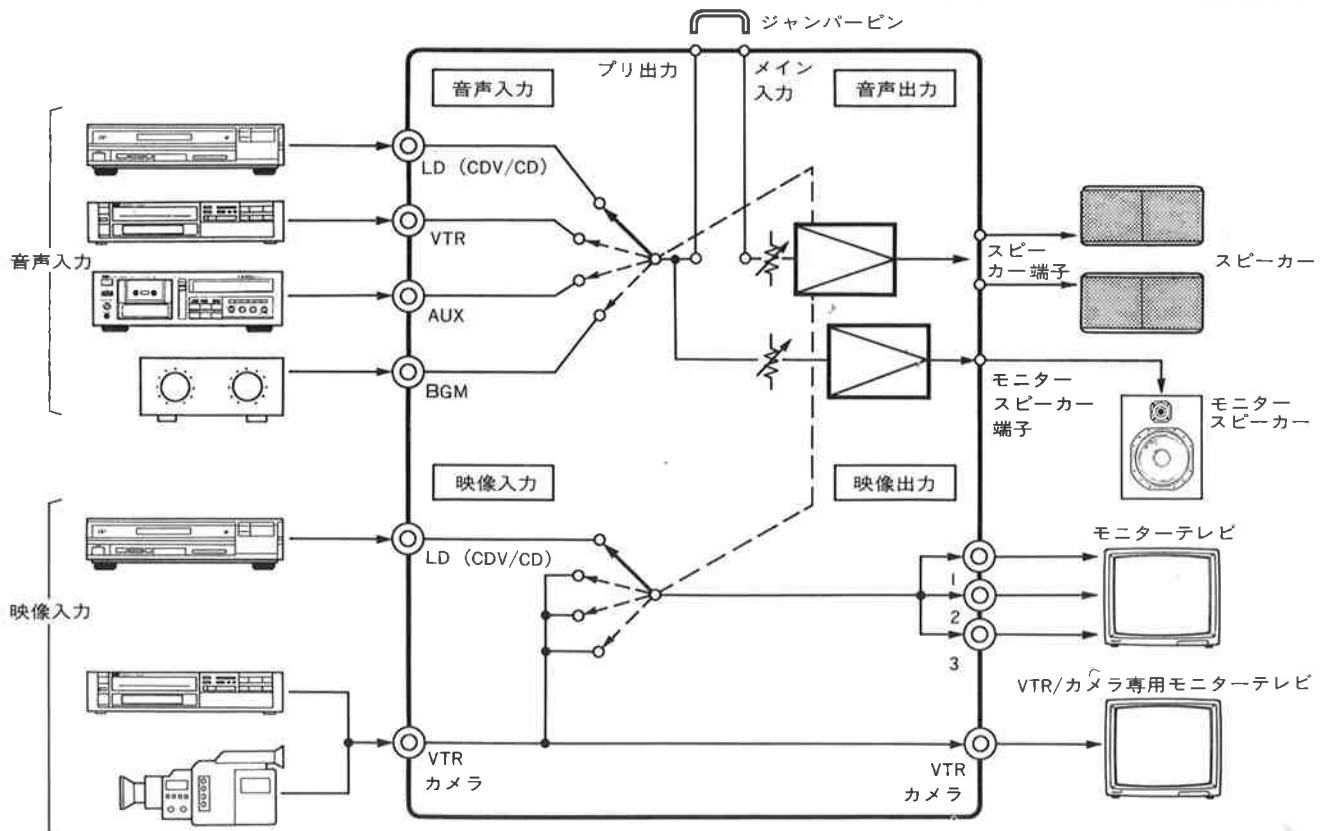
モニターテレビの映像はLD(CD/CDV)プレーヤーの映像が停止時は、映像入力VTR/カメラ端子に接続されている機器の映像に自動的に切り換わります。

\*停止時にブルー又は他の色になるLDプレーヤーでは切り換わりません。

**有線放送フェードイン機能について**

本機は演奏する機器がBGM(有線放送)に切り換わりますと、フェードイン機能の働きにより、有線放送の音量は主音量つまみで設定した音量まで約2秒~8秒をかけて、徐々に大きくなります。

●DSP-101など、外部機器を接続するときは6ページをご参照ください。



# 故障かなと思ったら

本機をご使用中に正常に作動しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に作動しない、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお問い合わせまたはサービスをご依頼ください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
POWERスイッチを押しても電源が入らない	電源プラグがコンセントからはずれている	しっかり差し込んでください
音が出ない	音量ツマミが0の位置になっている	主音量ツマミ、ミュージック音量ツマミ、マイク音量ツマミを右に回してください
	リアパネルの音量ツマミを“-”側に回しきっている	“+”側に回してください
	接続が不完全	接続を確認してください
	ジャンパーピンが外れている。	ブリ出力1とメイン入力端子をジャンパーピンでつないでください(外部機器(例：*DSP)と接続する場合はジャンパーピンは不要です)
片チャンネルの音が出ない	バランスツマミがどちらか一方に回し切られている	バランスツマミで左右の音量バランスを調整してください
	接続が不完全	接続を確認してください
マイクの音が出ない	マイクプラグの接続が不完全	接続を確認してください
	マイク音量ツマミが0の位置になっている	マイク音量ツマミを右に回し音量を調整してください
	マイクのスイッチがオフになっている	マイクのスイッチをオンにしてください
エコーが効かない	マイクエコー量ツマミが0の位置になっている	マイクエコー量ツマミを右に回しエコー量を調整してください
	マイク4を使用しているとき、マイクエコースイッチが“切”になっている	マイクエコースイッチを“入”にしてください
再生の途中で他の入力に切り換わってしまう	自動切換感度が高すぎる	その機器の自動切換感度スイッチを低に合わせてください
再生が終わっても次に再生する入力に切り換わらない	自動切換感度が低すぎる	その機器の自動切換感度スイッチを高に合わせてください
「キーン」という甲高い音が出る	ハウリングを起こしている	ハウリングカットスイッチを入れる。それでもなおハウリングが起こる場合は、音量ツマミで音量を調整するか、マイクをスピーカーから離します

# 参考仕様

## オーディオセクション

実用最大出力	150W×2+25W (モニター出力) EIAJ
全高調波歪率 (1kHz, 70W RL=6Ω, AUX IN)	0.1%
入力端子 (感度/入力インピーダンス)	
MIC	2.5mV/27kΩ
LD, VTR, AUX (センタークリック点)	150mV/45kΩ
BGM (センタークリック点)	300mV/45kΩ
出力端子 (出力レベル/出力インピーダンス)	
ブリ出力	700mV/1kΩ
音声出力	150mV/3.1kΩ
モノラル出力	150mV/1kΩ
周波数特性	
マイク	80Hz~10kHz (+0dB, -3dB)
LD, VTR, AUX, BGM	10Hz~100kHz (+2dB, -3dB)
トーンコントロール特性	
ミュージック用 BASS (低)	±12dB (100Hz)
TREBLE (高)	±10dB (10kHz)
マイク用 BASS (低)	±13dB (100Hz)
TREBLE (高)	±10dB (10kHz)
S/N比 (JIS-A)	
マイク	72dB
LD, VTR, AUX, BGM	82dB
エコー遅延時間/残響時間	98~196msec/0~2sec
スピーカー出力端子	
ステレオ端子	6~16Ω (1系統のみ, AまたはB) 総合6Ω以上 (2系統使用時, A+B)
モニター (モノラル) 端子	6~16Ω
キーコントロール可変範囲	9ステップ、±2度

## ビデオセクション

映像入力端子 (入力感度/入力インピーダンス)	
LD, VTR/カメラ	1Vp-p/75Ω
映像出力端子 (出力レベル/出力インピーダンス)	
モニター、VTR/カメラ	1Vp-p/75Ω
総合	
電源電圧	AC100V 50/60Hz
消費電力	210W
電源コンセント	
スイッチ非連動	200W以下×1
スイッチ連動	300W (合計)×2
外形寸法 (W×H×D)	AX-101 : 480×146×423 (mm) AX-S101 : 435×146×423 (mm)
重量	17kg
付属品	2Pピンプラグコード×2 ラックマウント用ネジセット×1 (AX-101のみ)

●仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。

これは電子機械工業会「音のステータス」キャンペーンのシンボルマークです。

### 音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

# ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハ ホットライン サービス ネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用頂けるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

## ●保証期間

お買い上げ日より1年間です。

## ●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

## ●保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

## ●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年（テープデッキは6年）です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

## ●持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りの

YAMAHA 電気音響製品 サービス拠点へお持ちください。

(右欄サービス拠点の所在地と電話番号をご参照ください。)

## ●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品名、製造番号などもあわせてお知らせください。

※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

## ■YAMAHA電気音響製品サービス拠点

(電気音響製品の修理受付および修理品お預かり窓口)

北海道 〒064 札幌市中央区南10条西1-1-50 ヤマハセンター内  
TEL (011)513-5036

仙台 〒983 仙台市若林区鉾町5-7 仙台卸商共同配送センター3F  
TEL (022)236-0249

東京 〒211 川崎市中原区木月1184  
TEL (044)434-3100

新潟 〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F  
TEL (025)243-4321

松本 〒390 松本市大手2-5-2 中村屋ビル3F  
TEL (0263)32-5930

浜松 〒435 浜松市上西町911番地 ヤマハ宮竹工場内  
TEL (0534)65-6711

名古屋 〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2  
ヤマハ名古屋流通センター3F TEL (052)652-2230

京都 〒600 京都市下京区七条通間之町東入材木町483 第2マスイビル  
TEL (075)361-6470

大阪 〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内  
TEL (06)877-5262

神戸 〒650 神戸市中央区元町2-7-3 ヤマハ神戸店内  
TEL (078)321-1195

四国 〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ高松店内  
TEL (0878)22-3045

広島 〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39  
TEL (082)874-3787

九州 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4  
TEL (092)472-2134

ヤマハ株式会社

〒430 浜松市中沢町10-1

AV機器事業部

特機部営業課

TEL.(0534)60-3441

生産部品質保証課

TEL.(0534)60-3405

住所および電話番号は変更になる場合があります。